



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつゆぐイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第20回 年齢を隠したがる人たち

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

先日、こんな事件がありました。ある団体から講演を依頼され、チラシに印刷するためのプロフィールを主催者に送ったところ、

「山田先生からいただいたプロフィールに『生まれ年』が書いてありましたが、この部分は削ったほうがよろしいのではないのでしょうか」

という答えが返ってきたのです。意味がわからず、「どういことですか」と尋ね返すと、

「今回の講演会チラシには、男性講師のかたがたの生まれ年は明記していますが、山田先生以外のもう1人の女性講師の略歴には、生まれ年が入っておりません。それで、女性は皆さん年齢を公表なさらないほうがよろしいのではないかと思います……」

というお返事。これには絶句してしまいました。

私はウーマンリブではありませんが、この発言はどう考えても女性差別に当たるのでは？しかし主催者本人に悪気はなく、あくまでも親切心からアドバイスしてくれている様子なのです。ちなみに彼は、かなり年配の男性でした。

ここで喧嘩をしても始まりませんし、もう1人の女性講師のお立場もあると思いましたので、「それでは、お気に召すままにどうぞ」と答えておいたところ、後日送られてきた私のプロフィールからは、案の定、生まれ年だけがきれいに抹消されていました。

さて、この出来事を聞いて皆さんはどう思われたでしょうか。

「女性の年齢だけ書かないように仕向けるなんて、一種のセクハラだ」と立腹なさった方、「書きたい人は書き、書きたくない人は書かない自由があってもいいはず」と思われた方、「できることなら私も年齢は隠したいよ」と苦笑された方……。

想いは人それぞれでしょうが、今回に限らずつくづく感じるのは、多くの人が年を取ることに対して敏感すぎるほど敏感だという事実。

何年前かに女子大で集中講義をしたとき、そのあたりの疑問を学生にぶつけてみたことがあります。生徒全員に目をつむってもらい、

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

①
×

ビューホテル宿泊研修施設

コンシェルジュが
研修・会議をサポート
最大500名、
豊富な会場で研修
に対応

viewhotels.co.jp



「皆さんのなかで、自分はもうトシだと思っている人がいたら手を挙げてください」

と質問してみたのです。すると驚くなかれ、9割ほどの生徒が高々と挙手したではありませんか！

あとで彼女たちに「どういう理由から『もうトシだな』と思うの？」と尋ねたところ、

「新入生が入ってきて、自分たちには合コンの誘いが来なくなった。若い子にはかなわない」

「化粧のノリがいきらかに悪くなった。お肌の曲がり角を完全に曲がりました」

「肩や腰が凝って、疲れがとれません。温泉に行きたい」

などなど“若年寄”のようなコメントが続き、聞いている私まで肩が凝ってしまうほどでした。

ここで思い知らされるのは、「老いの自覚」は50や60になってから初めて感じる遅咲きの感情ではなく、それどころか人生のかなり早い時期からひたひたと忍び寄り、「私はもう若くはないんだわ」という悪魔のささやきに乗じて、まだ蓄(つぼみ)のうちから人生を貪(むさぼ)ってゆく魔物らしい、ということです。

そういえば私自身も、女子高生だった頃、「私たち、もう若くないよね」というセリフを当たり前のように口にしていた気がします。「その若さで何を言うか」とお思いでしょうが、当時の私たちは心から「もうトシだなあ」と感じていたのです。

考えてみれば、これは当然のことでしょう。なぜなら、16歳の女の子にとっての「今」というときは、15歳だった去年よりも1つ年をとった状態なのです。

人生のなかで、「今」というこの瞬間は、常に「自分史上最高齢」であるということ。だから、16歳の女の子が「私、もうトシだわ」とつぶやくのは、「過去の自分のどの瞬間と比べても、今という瞬間は最も年寄りである」という観点から見れば、まったくそのとおりなのです。

そう考えてみると「若さ」なんて、実に儚(はかな)い、幻に過ぎないのかも知れません。

「サバ(鯖)を読む」という日本語があります。「年齢をサバ読む」といえば、多くの場合、実年齢よりも若く自称することを指しますが、実はこれ、用法的にはまったくの間違い。「サバを読む」のほんとうの意味は、実際の数よりも大きく言うこと。実際の数よりも小さく言う場合は、「逆サバ」と言うのが正しいのです。

それはともかく、年齢を若く自称する(つまり逆サバ読みをする)人はわんさかいます。

知り合いのある女性は、幼稚園に通う息子さんに対して、自分の年齢をなんと15歳も逆サバ読んでいたそうです。

当時、彼女は43歳だったのですが、息子から「A子ちゃんのママは29歳なんだって。ママは何歳？」と聞かれ、口から咄嗟に飛び出した言葉が「28歳」。

喜んだ息子さんがその話を友達全員に吹聴してしまったため、「今さら引くに引けなくなってしまった」というのが、彼女の逆サバの理由なのでした。

その後、彼女は息子さんが小学校を卒業するまで嘘をつき続け、嘘がばれないために、「ママの若い頃は、こんな音楽が流行していたのよ」とか「有名人の〇〇さんとママは同じ年だね」といった状況説明まで、すべて嘘で固めていたというのですから、まったく涙ぐましい努力と言うほかはありません。

そうは言ってもそんな無茶な状態が続くはずもなく、周囲からの忠告もあって、彼女は息子さんが小学校を卒業するとき、清水の舞台から飛び降りるような覚悟で、

「ゴメンナサイ、実は今まで嘘をついていました」

と告白したのだそうです。

ところが息子さんから返ってきたのは、「ああ、そうなの」というアッサリとした答え。

その言葉を聞いたとたん、彼女は力が抜けてしまい、ヘナヘナと倒れ込みながら、(こんなことなら、最初から嘘なんかつくんじゃなかった)と思ったのですが、それにしても、実の息子さんに対してまで彼女が年齢を逆サバ読んだ理由は、果たして女としての見栄だったのか、それとも母としての思いやりだったのか。

——本当のところは本人にもわからないようですが、人間の心って不思議です。

1000年前にも、1000年後にも、年を逆サバ読みする人はたくさんいた(いる)のでしょうし、昔の人が命をかけて不老不死の薬を追い求め、現代人がアンチエイジングや遺伝子操作で若返りを図っているように、おそらく未来の人類も、年を取ることに抵抗し、運命と格闘しつづけるのでしょう。

ところで、「若」という漢字の半分を消すと「老」の字が残ることはご存知ですか。嘘だと思ったら、「若」という字の右半分だけを覆い隠してみてください。「老」という字が残ったでしょう。

これらの漢字を考えた昔の中国人は、こうなることを最初から知っていたのか、それともこれは偶然の産物なのか。そのあたりは定かではありませんが、漢字の形だけから見れば、「若さの半分は老いである」と言えるのではないでしょう。

しかし、これを逆説的に解釈すれば、「老いは若さの一部である」とも言えます。ネガティブにとるかポジティブにとるかで意味がまるきり違ってしまうのも、これまた不思議ですね。

泣いても笑っても、どう生きても一生は一生。

どうせ年を取るのなら、毎年の誕生日を楽しく祝って年齢を重ねたいものです。

≪ 第19回 若い時の苦勞は買ってでもしろ 第21回 四億年の引きこもり ≫

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

好きなことをして飯を食う手順

18186人が読んでいる無料メルマガ。あなたの強みを活かしたビジネスの作り方 personal-promote.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ふつふつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう!](#)

[たいけんしてみよう!](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[ふつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

もうすぐ、食えなくなる仕事

人から仕事を奪う3つの大きな原因とは? directsales.jpへ進む

